

企画運営委員会・年次支部協議会・懇親会の開催について

於 平成25年4月13日(土) 中央大学駿河台記念館

企画運営委員会 (560号室 午後3時)

年次支部協議会 (620号室 午後4時30分)

懇 親 会 (510号室 午後6時)

支部名	企画運営委員会		年次支部協議会		懇親会	
白門二六会	欠		欠		欠	
二七会	欠		欠		欠	
二八会	支部長	飯塚 久子	支部長	飯塚 久子	支部長	飯塚 久子
白門二九会	欠		支部長	中村 茂八郎	支部長	中村 茂八郎
三十年会	支部長	堀合 辰夫	副幹事長	岩浅 道雄	副幹事長	岩浅 道雄
			事務局長	下田 志郎	事務局長	下田 志郎
白門三一会	企画運営委員	遠藤 喬介	幹事長代理	遠藤 喬介	幹事長代理	遠藤 喬介
白門三二会	欠		幹事長	石川 光弘	幹事長	石川 光弘
白門三三会	欠		副幹事長	国分 義信	副幹事長	国分 義信
白門三五会	欠		支部長	青山 和夫	支部長	青山 和夫
白門三六会	欠		支部長	吉田 昌昭	支部長	吉田 昌昭
白門三七会	支部長	庭山 卓	幹事長	石川 捷敏	幹事長	石川 捷敏
			幹事長	川島 豊臣	事務局長	慶野 弘子
			事務局長	慶野 弘子	事務局長	慶野 弘子
白門三九会	幹事長	柳田 晋次	支部長	高橋 丈雄	支部長	高橋 丈雄
白門40年会	欠	欠	幹事長	柳田 晋次	幹事長	柳田 晋次
			支部長	佐々木 幸男	支部長	佐々木 幸男
42年白門会	会計監査	鈴木 康二	事務局長	西山 勝凱	事務局長	西山 勝凱
			支部長	鈴木 康二	支部長	鈴木 康二
白門43会	欠	欠	幹事長	小林 定寿	幹事長	小林 定寿
			支部長	倉田 隆次	支部長	倉田 隆次
白門44会	会長	松木 茂夫	会長	松木 茂夫	会長	松木 茂夫
白門45会	幹事長	山城 博光	支部長	相場 有二	支部長	相場 有二
			幹事長	山城 博光	幹事長	山城 博光
			事務局長	平岩 弘邦	事務局長	平岩 弘邦
白門46会	支部長	増田 晃次郎	支部長	増田 晃次郎	支部長	増田 晃次郎
			幹事長	半澤 勉	幹事長	半澤 勉
			副幹事長	遠藤 一義	副幹事長	遠藤 一義
白門48会	代表幹事	小田 眞一	代表幹事	小田 眞一	代表幹事	小田 眞一
	年次支部協議会担当委員長	佐藤 愛子	年次支部協議会担当委員長	佐藤 愛子	年次支部協議会担当委員長	佐藤 愛子
白門50会	欠		欠		欠	
白門53会	欠		支部長	野田 明利	支部長	野田 明利
白門54会	支部長	掛水 省三	幹事長	権守 隆男	幹事長	権守 隆男
白門55会	欠		支部長	掛水 省三	支部長	掛水 省三
58会	欠		支部長	小暮 陸美	支部長	小暮 陸美
白門63会	欠	欠	財政部長	柳 幸季	財政部長	柳 幸季
			幹事長	松尾 あずさ	幹事長	松尾 あずさ
平成元年白門会	幹事長	小川 学	幹事長	小川 学	幹事長	小川 学
白扇会	欠	欠	副会長	菊地 英治	副会長	菊地 英治
			幹事長	久保 良太	幹事長	久保 良太
平成11年白門会	幹事長	久保 良太	幹事長	久保 良太	幹事長	久保 良太
年次支部協議会	顧問	正野 建樹	顧問	正野 建樹	顧問	正野 建樹
	顧問	室 勝弘	顧問	室 勝弘	顧問	室 勝弘
学員会本部			副会長	吉田 憲一	副会長	吉田 憲一
学員会本部事務局			事務局長	木下 澄雄	事務局長	木下 澄雄

2013年4月13日 年次支部協議会会議の予定

本日の予定(受付はそれぞれ30分前からです。)

- ・企画運営委員会:15時00分～16時20分 560号室
- ・年次支部本会議:16時30分～17時50分 620号室
- ・会食: 18時00分～20時00分 510室
会費男性3,000円、女性2,500円、学生2,000円

会議内容

1. 今期基本方針:小田(5分)
 2. 今期事業計画:柳田事務局長(7分)
 3. 前期決算、今期予算について:平岩会計幹事(6分)
 4. 前期会計監査:鈴木会計監事(4分)
- 質疑
5. 今期施策の発表(各施策について質疑)
 - ①学員交流委員会:山本委員長・佐藤副委員長(8分)
 - ②IT化推進委員会:小川委員長(6分)
 - ③学生支援委員会:間宮委員長、久保副委員長(8分)
 - ④ホームカミングデー活性化について:掛水企画運営委員長(6分)
 6. その他連絡事項、提案事項(年次支部本会議のみ)(10～15分)

※イベント交流・参加者募集:各支部より案内

- ・ 5月9日(木)18時30分(ADK松竹スクエア)勉強会「相撲の魅力」
元関脇玉春日関、柳屋小談治(いずれも学員)によるトークショー
……日本伝統文化国際交流協会:鷲見理事(昭和46年学員)より
- ・ 10月19日(土)箱根駅伝予選会(立川、昭和記念公園)
学員会を挙げて応援しよう。……スタート時間等、詳細は決定次第お知らせ。

前期報告、今期基本方針

中央大学学員会 年次支部協議会

代表幹事 小田眞一（白門48会会長）

皆さま、日ごろより学員会年次支部協議会の活動にご理解とご協力をいただき、まことにありがとうございます。

昨年「年次支部連携のネットワークを構築する。」として新体制がスタートしました。

先輩・後輩・学生の年次を越えた連携の構築は大変重要で、これが構築できれば、これからの中央大学全体の大きな強みになります。

前期に発足した委員会の概要を報告いたします。

1. 委員会の概要（委員長は、平成年次学員の方々です。）

- (1)「学員交流委員会」山本卓委員長（平成二年支部）、佐藤愛子副委員長（白門48会）……各年次支部の交流を目的にイベント情報を共有し、年次を越えて、積極的に交流の機会をつくる。
- (2)「IT化推進委員会」小川学委員長（平成元年白門会）……ホームページ未作成支部の制作支援を行ない、学員同士の交流の場を提供する。ITの活用について、アドバイスを行なう。
- (3)「学生支援委員会」間宮康之委員長（白鳳会2007）、菅野光憲副委員長（白連会2008）、秋山豊副委員長（白連会2009）、久保良太幹事長（平成11年白門会）……学生の就職支援活動を中心に活動する。

2. 各委員会の活動状況

(1)「学員交流委員会」は、ホームカミングデーでの出店（年次支部協議会、白門45会）、ロンドンオリンピック出場陸上競技選手出発激励会への参加（58会）、プラターズコンサートへの参加（白門37会）、箱根駅伝応援（白門48会他）等で交流が行なわれました。

また、平成二年支部、白扇会（平成3年）では、共同で「平成年次をつなげるプロジェクト」が設立され、北野大（まさる）講演会、濱嘉之講演会が開催されました。

※今期も、学員の皆さまがいろいろなイベントに参加できるよう、更に各支部から情報提供をいただき、発信していきたいと思えます。

(2)「IT化推進委員会」は、小川委員長が自ら、自分のスキルを生かして行いたいとのことで発足しました。今年度は、各年次支部をつなげる連絡網の整備等がテーマになります。

(3)「学生支援委員会」の就職支援活動は、①学生に対し就職活動の意識付けを行う。

②若手の学員が業界や企業の説明を行い、企業の幹部となっている学員が模擬面接官を勤める。

③懇親会で学員と学生が交流を図るなど、大変に意義のある企画でした。

※就職する学生にとっては大変助かることであり、今後大学との連携や、広報等を工夫することによって更に発展する可能性があります。

3. 今期基本方針

今期は、前期発足した各委員会活動を更に充実・進化させるとともに、新たな委員会として「中央大学ブランドの再生(準備)委員会」を立ち上げたいと思います。

テーマが大きいです、具体としては「国際的に活躍する卒業生を、多数輩出する大学」を目標として、われわれ会員が大学に何か協力(グローバル化、産学協同研究、広報活動等)できないかを検討し、良い提言や活動ができればと思っています。

また、年次支部協議会の活動を知っていただくために、会報を発行する等「広報活動」も行っていきたいと思っています。

今年度も、よろしくお願い申し上げます。

平成25年度年次支部協議会事業計画

平成25年4月13日

年次支部協議会

企画運営委員会

平成25年度年次支部協議会事業計画策定にあたっては、大学の事業計画及び学会事業計画の施策内容を踏まえ、学会の目的である大学への支援、及び会員相互の親睦の趣旨を勘案して、年次支部として積極的に施策推進に協力することを旨として、以下に各種施策を策定する。

I 年次支部施策の取組に関する基本方針

1. 大学への支援、学会の親睦・発展に貢献する。
2. 年次支部が全会員の参加団体としての役割を担うことを使命とし、全会員にネットワークを拡大し白門の絆を築くことを推進する。
3. 会員相互の親睦のため、幅広い実り豊かな交流と、積極的な活動を推進する。

II 年次支部活動施策

1. 主として大学の事業計画への支援

- (1) 学修支援の一環である就職支援の充実を図る。

年次支部OB等、会員の協力を得て、就職活動を支援する（学生支援委員会）。

- (2) ホームカミングデーの活性化をおこなう（企画運営委員会）。

2. 主として、会員としての支援活動や学会の連携を強化する施策

- (1) 東北大震災の被災者等への支援

年間を通して、白門OB、被災学生への資金支援等呼びかける（企画運営委員会）。

- (2) 白門支援金の拠出協力を呼びかける（企画運営委員会）

- (3) 会員大ネットワーク構築に向けての施策への参画

会員大ネットワーク拡大に向けて、年次支部の活動の活性化を図り、年次支部活動への参画の奨励活動をおこなう（会員交流委員会）。

- (4) 学会本部施策の学会離れへの活性化支援の事業としての受託を本部への働きかける（企画運営委員会、執行部）。

3. 主として年次支部活性化への活動施策

年次支部の活動の活性化が、学会の目的に寄与することになることから、幅広い年次に各種施策への理解と協力を呼びかける。

- (1) 年次支部活動の連携強化に向けた施策

会員参加型イベントを企画・推進し会員の活動の活性化、体制の強化を図る（会員交流委員会）。

(2) 年次支部学員の相互交流（主として若手との交流）

学会離れの傾向がある中で、若手支部との積極的な交流会を企画・実践する（執行部、学員交流委員会）。

(3) 年次支部学員間の情報の共有化

ホームページの作成参加を推進しネットワークの拡大に寄与する。更に、メーリングリストの充実や新卒者へのメールアドレス付与などを推進する（IT化推進委員会）。

(4) 学会事業計画、大学事業計画などの計画、実施状況の内容などの情報を提供する（大学評議員、学会役員に選出された方）。

(5) 年次支部事業計画円滑化、効率化に向けた施策

各種委員会活動への理解と協力を積極的に推し進めるため、支援体制を構築する（企画運営委員会）。

4. 事業計画推進に向けた総合スケジュール

各種施策を線表化し、進捗管理、成果の確認等に活用する（企画運営委員会）。

III 施策推進の組織活動のプロジェクト等

年次支部協議会の施策を明確にし、その成果を具現化すると同時に、情報の共有化を図るため、下記の各委員会は、各活動施策をそれぞれの委員会で管理し、適時、年次支部協議会に報告する。

1. 企画運営委員会
2. 学員交流委員会
3. IT化推進委員会
4. 学生支援委員会
5. 会報の発行等広報活動

IV その他

年次支部年会費の納付の推進（企画運営委員会）。

「参考資料」

○平成25年度学会事業計画（案）

中央大学学会会則

（目的）第2条 本会は、会員相互の親睦をはかり、母校中央大学の発展とその使命達成に寄与することを目的とする。

I 基本方針

1. 会員ネットワークを拡充・強化することにより、会員相互の親睦を深める。
2. 会員と中央大学との関係を密にし、互いに満足度を高める。
3. 中央大学の事業を支援し、母校の発展に寄与する。
4. 大学及び学会の将来に資するための組織・規則等の見直しと方向付け。
5. 既卒者からの会費増収策の推進ならびに白門支援金制度の推進

II 主な事業計画（重点項目）

1. 会員活動、支部支援
 - (1) 会員ネットワークの拡充・強化
 - (2) 支部活動支援の強化・充実
 - (3) 会員サービス活動の推進
 - (4) 若年層の会員会離れに対する活性化対策
2. 白門支援事業の開始
3. 準会員のサポート
 - (1) キャリア支援事業の更なる充実
 - (2) 在学生特別表彰（課外活動に対する表彰）
 - (3) 在学生への寄付講座
 - (4) 父母連絡会との交流及び支援強化
4. 安定した財政基盤の確立と整備
 - (1) 既卒者から会費増収策
 - (2) 白門支援金制度の推進

III 会則の定める事業内容（学会会則第3条）

1. 奨学援助及び学術研究に対する助成
2. 講演会の開催
3. 父母連絡会との交流
4. 学生との交流
5. 会報の発行
6. 会員名簿の編纂

○平成25年度中央大学事業計画（案）

～「学生起点の大学づくり」を目指して～

1885（明治18）年に英吉利法律学校として創立以来、本学は「實地應用ノ素ヲ養フ」という建学の精神のもと、社会に貢献できる有為な人材の育成を目指し、教育と研究の高度化に努めることで、社会からの負託に応えてきた。

「重点事業方針」

- 1. 教育の質の向上
- 2. 学修支援の更なる充実
- 3. 国際化の促進

平成25年度中央大学事業計画（案）

I 学生の潜在力(Capability)の開発

- 1. 建学の精神、大学の理念・目的・教育目標の全学的浸透
- 2. 教育の質の向上
 - (1) 学士課程教育の質の向上
 - (2) 大学院教育の高度化・実質化と質的向上
 - (3) 組織的なFD活動の全学的推進
 - (4) 競争的資金（学内外）を活用した教育質の向上
 - (5) キャリア教育の推進
- 3. 学修支援の更なる充実
 - (1) 学びをやりがいにつなげる体制強化
 - (2) きめ細かな学生対応
- 4. 中大ブランドの形成
 - (1) 資格取得支援の強化
 - (2) 学術・文化・スポーツ振興
 - (3) 入学志願者の質的・量的強化
 - (4) 戦略的な広報活動の推進
- 5. 総合学園づくりの更なる促進
 - (1) 総合学園としての教育連携の促進

II リソースの結集

- 1. 研究力の向上
 - (1) 研究者養成制度の充実
 - (2) 研究活動の促進
- 2. 国内外におけるネットワークの構築
 - (1) ステークホルダーとの連携推進

3. 教育・研究環境の整備

- (1) キャンパス環境整備

4. ガバナンスの再構築とマネジメント機能の強化

- (1) 意思決定・マネジメント体制の整備
- (2) 危機管理体制の整備
- (3) 中長期計画及びマネジメントシステムの構築
- (4) 財務基盤の強化
- (5) 事務組織の活性化

Ⅲ 独立会計部門の事業計画

- 1. 中央大学通信教育部
- 2. 中央大学高等学校
- 3. 中央大学杉並高等学校
- 4. 中央大学附属中学校・高等学校
- 5. 中央大学附属横浜中学校・高等学校
- 6. 中央大学経理研究所
- 7. 中央大学収益事業会計

注：平成24年度の事業計画に記載されていた国際化（国際化及びグローバル人材育成に向けた取り組みの推進など）、国際的な研究活動の推進、女子学生への支援強化、ガバナンスの項目では、教学における重点課題の再設定と執行体制等の強化における大学改革の推進などの項目が抜けていることに関しては、意見を提出しているので見直しされるだろう。

年次支部協議会／学員交流委員会（来期事業計画）

提出者	委員長	山本 卓（平成二年支部）	提出日（平成 25 年 3 月 18 日）
-----	-----	--------------	-----------------------

1、他支部間交流（他支部開催イベントの相互参加）促進対策としての学員会HP整備の本部への働き掛け

〔現状〕

- ①年次支部に限らず、学員会の各支部では会員相互の親睦や会員の知的好奇心を満たすことなどを目的に趣向を凝らした各種イベント（講演会、花見会など）が企画されている
- ②これら支部主催のイベントは参加対象者によって下記の2種に分別される
 - (1)参加対象者を支部の所属会員に限定しているもの（支部長招待等も含む）
 - (2)参加対象者を広く他支部会員（学員）に公開されているオープン参加のもの
- ③現在、大学公式HPの【学員会(同窓会)】の頁に各支部が催すイベントを告知する欄【学員会の新着イベント】が設けられているが（裏面参照）、案内には参加対象者の区別なく告知されている
- ④因って会員は自らの所属している支部のイベントのみを閲覧することから、他支部主催オープン参加型イベントの「オープン参加」として告知が徹底しないために他支部間交流の機会が喪失されている

〔対策〕

- ①年次支部に限らず「学員の交流」を促すためには、支部が所属会員に参加を限定せずに広く学員参加を公開（オープン参加）しているイベント、所謂「学員交流企画」は別立てで告知出来るよう大学や学員会本部にHPの修正、機能強化を働き掛ける
- ②年次支部協議会としては、HPによる「学員交流企画」の告知を推進する一方で、インターネット告知に馴染まない会員を抱える年次支部に対しては、引続いて郵送やFAXなどの紙媒体を活用していく必要がある（ネット告知に馴染まない会員を抱える支部は今でも個々の会員と確り「線」で繋がっているの、紙媒体は未だ有効に機能すると思われる）

2、学員会本部「若年層の学員会離れに対する活性化対策」の事業受託の本部への働き掛けとイベント企画

〔現状〕

- ①昨年5月12日開催の定時学員総会(協議員会)にて可決された「平成24年度学員会事業計画」で、事業(重点項目)の1[学員会活動、支部支援]に(4)「若年層の学員会離れに対する活性化対策」が盛り込まれている
- ②しかし残念ながら本部による「若年層の学員会離れに対する活性化対策」の事業化は捗っていない
- ③一方で事業(重点項目)1[学員会活動、支部支援]の(2)「支部活動支援の強化・充実」の②〈同期会(年次支部)結成支援〉が功を奏し、若年層の既卒未結成年次支部結成されるなどの成果は出ている
- ④上記支援により結成が図られた平成二年支部が白扇会(平成三年)支部と相計り「平成年次連携『つなぐ』プロジェクト」を発足させ、昨年8月に「北野大講演会」、同10月に「濱嘉之講演会」を企画し、延べ100名近い若年層中心の参加者を集客させた

〔対策〕

- ①学員会本部事業「若年層の学員会離れに対する活性化対策」を、若年層をも組織的に網羅し得る「年支部協議会」が支援すべく、本部と協議して「受託事業」のスキーム構築を図る
- ②平成二年支部が白扇会(平成三年)支部と相計って発足させた「平成年次連携『つなぐ』プロジェクト」を本部による「若年層の学員会離れに対する活性化対策」の一環として位置付けるべく「年次協議会」として本部に提案、来年度事業に盛り込み、併せて当該事業を年次支部協議会として受託すべく働き掛ける

3、「異文化交流」を掲げた学生のための学員参加型交流イベントの企画検討

以上

「年次支部協議会の IT 化推進委員会」

2013/4/13

●現状の課題

- ・各年次支部の活動報告アピールが弱い
- ・各年次支部を跨った活動がしにくい
- ・大学の公式サイトが十分に活用されていない
- ・年次支部ホームページ(HP)の作成率が低い
- ・各年次支部 HP の更新頻度が低い
- ・各年次支部 HP のフォーマットがバラバラ

●各年次支部 HP の保有率

- ・各年次支部が独自のホームページを持っているのは、22 年次支部のみ/60 年次支部中 (全体の約 37%)
(白門二六会から白連会 2012 までの 60 年次支部)
- ・また、ホームページを持っていても、活動報告が不十分な年次支部も存在する。
参照 : http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/gakuinkai/u05_03_04_j.html

●今期の計画

- ・年次支部のホームページ(HP)作成率を上げる。→ 目標 5 支部 (22 支部→27 支部)
- ・現在登録中のグループ・メーリング・リストを増やす。
- ・新卒者 (新學員) のメールアドレス付与

●具体的な施策

- ・年次支部協議会でその都度募集する。
- ・グループ・メーリング・リストは、最低各支部 2 名 (支部長、幹事長) の登録を要請す。
- ・主な活動は、各年次支部の担当者のご都合のよい日時に委員長が直に HP 作成支援を 1 対 1 でレクチャーする。また、各年次支部の HP 更新担当者には、HP 更新方法を 1 対 1 でレクチャーする。
- ・今後作成する HP のフォーマットはなるべく統一する。

●必要な予算計画 (大まかな概算)

担当者の交通費	10000 円
打合せの場所代	20000 円
通信回線料金	20000 円
合計	50000 円

以上

2013年度 計画(案)

学生支援委員会

○中央大学

2013年4月13日

年次支部協議会

2013年度学生支援運営方針



1. 現状認識 (Research & Review)

～私たちの認識～

1. 中大現役生の進路選択に寄与する支援

- 中大内定者・若手OB/OG(20代後半が中心)と中大現役就職活動生との接触機会の提供は、昨年で8回目。少人数での個別相談という形式が参加者の高い満足度を得られていることから、学生支援委員会の屋台骨の施策として継続の必要あり。
- 模擬面接を初めて2012年秋に実施。年次が上のOB/OG(30代・40代)と現役就職活動生との接触機会の提供を開始。但し、面接手法や運営方法については検討の必要あり。
- 従来の企画実施以外に、新たな支援策が必要か検討。

2. 中大OB/OGのネットワーク構築

- 年次支部協議会のもとでコラボレーションを初めて実施。本企画の趣旨に賛同くださる幅広いOB/OGのネットワークの構築ならびに新学員の取り込みに向けて今後重要。
- 上記支援策に適するOB/OGの起用に向けて、リスト整備も必要。

2. 2013年度目標 (Goal)

～私たちの約束～

- 進路選択に寄与する支援策を通して、
 - ① 学生が思う自分のなりたいたい社会人像を自分自身でイメージできる。
 - ② 設定したゴールに向かって、自分自身で現状把握と今後の活動を具体化できる。
- 就職活動生の横の交流機会を提供、卒業後の年次支部としての交流に繋げる。

3. 計画 (Plan)

～私たちの行動～

1. 進路選択支援企画の実施

- 日程: 2013年11月9日(案) (代替: 11月16日)
 規模: 社会人(協力者)30人 × 就職活動生300人規模
 形式: ①進路相談会(年代層に厚みを持たせるよう内容を検討)
 ②内定者協力を得た公開模擬面接の実施
 ③企画実施日に、学生間あるいは社会人と学生の交流を促進する交流会の実施

2. OB/OG名簿リストの作成(2013年度より着手)

学生にとって魅力的な社会人、社会人からみられた魅力的な社会人のリスト化。進路支援企画での最適なOB/OGの人選に寄与。副次的に学員会各種活動への呼び込みにも使用。

3. その他

- ① 内定者(4年生・M2)を中心に、新学員との交流策を検討。
- ② 実施可能性を探りながらではあるが、部・ゼミ単位で、専門性の高い進路選択支援企画を個別に実施(例: マーケティング専攻ゼミに、実務で活躍しているOB/OGの派遣検討)等、新規案の検討。

4. 予算 (Budget)

⇒ 詳細は次頁

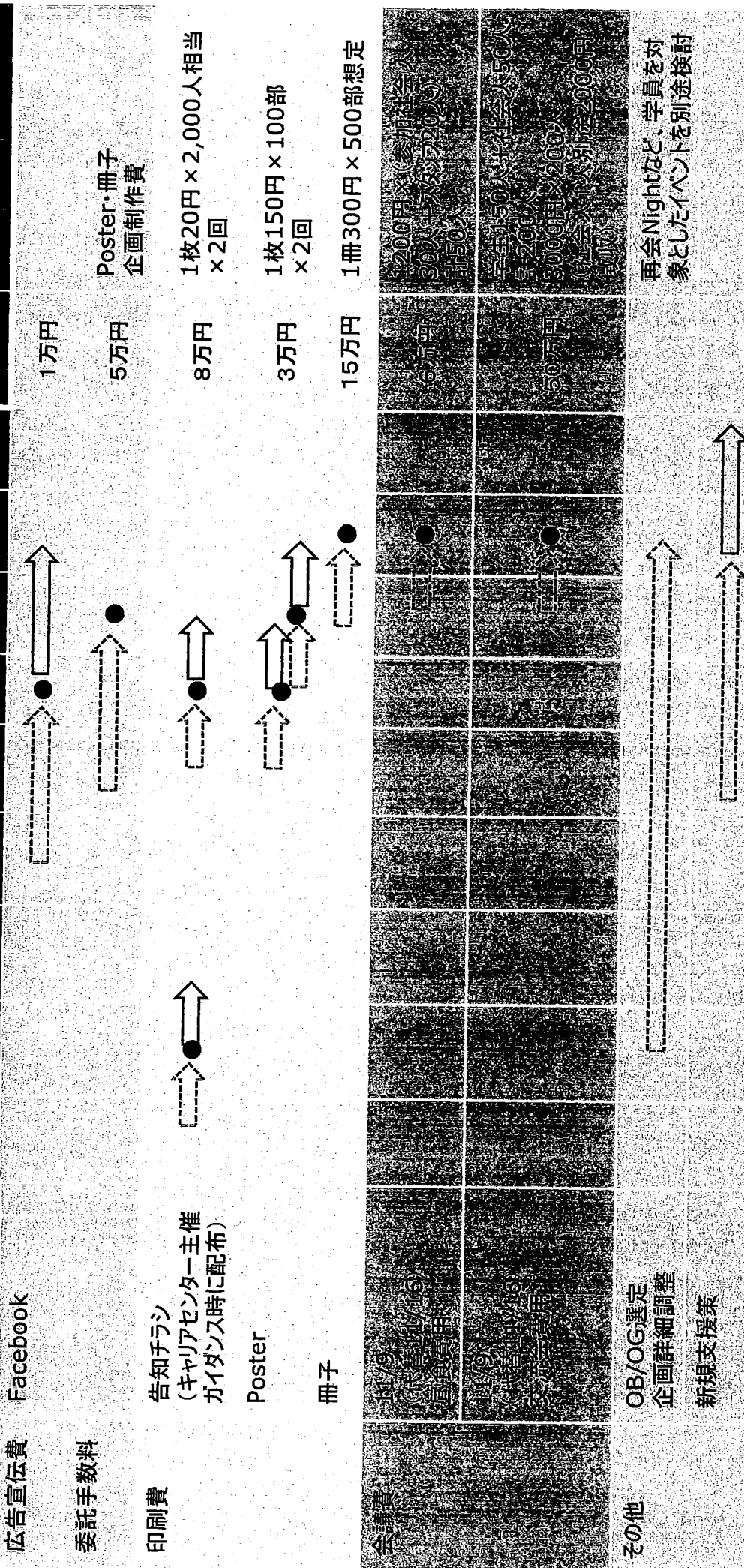
～施策費用～

(一管)	4～6月	7～9月	10～12月	合計
委託手数料		Facebook (1万)	媒体企画費 (5万)	6万円
印刷費	告知チラシ (4万)	告知チラシ (4万)	Poster(3万) 冊子(15万)	26万円
				56万円

4. 予算(Budget) 詳細

(一管)
~施策費用~
準備
⇨
掲載・配布
●
支払時期

	4~6月			7~9月			10~12月			合計	備考 (試算)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
広告宣伝費										88万円	
委託手数料										1万円	
印刷費										5万円	Poster・冊子 企画制作費
その他										3万円	1枚20円 × 2,000人相当 × 2回
										15万円	1冊150円 × 100部 × 2回
										6万円	1冊300円 × 500部想定



- 交流会は、①当日参加の学生と社会人の交流を促進、②学生間交流を通して新規年次支部形成の足掛かりとすることを目的に実施予定。
- 昨年度未計上の印刷費用を必要経費として申請、一方、交通費・講師費用・協力者謝礼は今年度は計上せず。
- 新規支援策については、大学関係者と協議しながら、経費をかけずに実現できる内容を検討。

2013年4月13日

「ホームカミングデーの活性化について」

ホームカミングデー（白門学員祭）は今年度で第22回を迎えます。毎回3千・4千名の参加があり、当日は全国から学員とその家族が集まり大いに盛り上がります。前回は生憎の雨で参加者が少なかったは残念です。天候に左右されることも事実ですが、参加学員の数は頭打ちというのが現状です。今後参加人数をどうやって増加させるか、が課題であります。

ホームカミングデーの企画・運営については、中央大学が運営委員会を設けて実施・計画の検討を行っています。年次支部協議会においても積極的に意見を出して、それをホームカミングデー運営委員会に反映させていく必要があります。

ホームカミングデーの活性化については、参加学員（家族を含めて）をどうしたら増加できるか、の視点で考えたいと思います。

（1）イベントの企画について

参加人数を増やしホームカミングデーを活性化するには、学員にとって魅力的な催しを多く創ることです。前回新たに「中大の絆」を企画し、好評を博しました。地域・年次・職域各支部の面々がメインステージ上に集合し、中央大学OB・OGの連帯を確認いたしました。

また年次支部では、特別に模擬店出店をいたしました。

- ①「中大の絆」の継続およびさらなる発展を考える。 10/29 (6)
- ②年次支部の模擬店出店の増加
- ③魅力ある講演会・・・

（2）福引抽選会について

ホームカミングデーの楽しみのひとつとして福引抽選会があります。千円で物品を購入すると1枚の抽選券がもらえ、抽選で色々な景品が当たります。景品は広く寄贈者を募り、毎回多くの品物や金券等が集まります。抽選会はホームカミングデーの最も盛り上がる場面であります。福引抽選会をさらに充実させることにより、参加者の増加が期待できます。

- ①物品の値段を千円に限定しない。
- ②景品の質・量の向上
- ③抽選会のやり方の再検討

（3）会場について

多摩校舎は広大なキャンパスで、ともすれば迷子になる恐れがあります。また階段が多く、足の悪い方々には過酷です。中大職員の皆さんが案内や警備に当たってくれていますが、不十分なところもあります。

- ①経路を明確にする。階段の安全対策。
- ②案内板を分かりやすくする。
- ③案内の人数の増加

(4)人材の確保・活用について

参加人数を増やすには、魅力ある催しが不可欠です。我が中央大学には各界で活躍されている人材が数多くいます。ホームカミングデーにおいてもこれらの方々に講演その他さまざまなご協力を頂いております。しかし、まだまだ十分とは言えません。皆が並んでも見たくなるような内容を質・量ともに増やすことを考えなければなりません。人材を確保するためには、普段からの交流が大切です。日頃の付き合いの延長として、イベント等への協力が得られるからです。

- ①各界の人材のリストアップ(もっと詳しく)
- ②折に触れコンタクトを取っておくこと
- ③人材の紹介を受ける(「友達の友達作戦」)

(5) 飲酒について

全国から学員が集まって旧交をあたためるためには、やはりお酒は必要でしょう。前回の反省点として、過度に酔った人が目立った事、酒に酔った方が階段から転落して救急車を呼ぶに至ったこと等がありました。安全面からすれば、飲酒について一定の制約が必要とも考えられますが、やはり参加者の自制を待つべきなのでしょうか。

- ①飲酒場所の限定
- ②過度のメイテイを避ける手立てをかんがえる。
- ③安全面の配慮
- ④その他

年次支部協議会 学会役員候補名簿

2013年4月5日

顧問	飯塚久子先輩	中央大学および中央大学学会会に対する、長年の多大なるご支援、ご貢献に対し、大いなる敬意を表し、学会顧問に推挙させていただく。
副会長	柳田晋次	白門 39 会
	室勝弘	白門 45 会
常任幹事	庭山卓	白門 37 会
	増田晃次郎	白門 46 会
	佐藤愛子	白門 48 会
幹事	堀合辰夫	白門 30 会
	松本将男	白門 38 会
	松木茂夫	白門 44 会
	相場有二	白門 45 会
	山城博光	白門 45 会
	小田眞一	白門 48 会
	野田明利	白門 53 会 (補欠繰り上がり)
	川島正博	白門 55 会
会計監事	平岩弘邦	白門 45 会

幹事候補の補欠推薦について、

(敬称は略させていただきました。)

①白門 42 会鈴木康二さんが、他の団体より推薦があったため辞退されました。

②白門 54 会掛水省三さんが、選考委員会の段階で辞退されていたので、50 年代支部から野田さんを幹事に推薦させていただきました。

※候補者の選考について (方針、経緯等)

1. 候補者の推薦について

①60 年にわたる年次各支部から、広く人材を募る。

②中央大学や中央大学学会会に対し貢献が認められる方

③中央大学ブランドの向上や学会会の連携強化等について、積極的な提言ができる方

④年次支部協議会の活動について、大学や学会会に積極的に説明をしていただける方

⑤大学や学会会の時々の状況について、年次支部協議会で説明していただける方

2. 選考委員会委員 (学会年次支部推薦の役員でない人で構成)

(1) 委員

・青山 (33 年)・鈴木 (42 年)・松木 (44 年)・山城 (45 年)・小田 (48 年)

・掛水 (54 年)・山本 (平成 2 年)

(2) 選考方針

①公正に ②明快に ③推薦数は重視 (イレギュラーがないかを確認)

④私情をはさまない ⑤各年次のバランスは考慮

年次支部協議会平成24年度収支決算報告

1. 収入の部

- (1) 年度会費の納入は24支部。
- (2) 懇親会費は6回開催の参加者負担金。
- (3) その他の収入は、普通預金利息とホームカミングディの模擬店売上金。

2. 支出の部

- (1) 会議会合費は6回開催の懇親会費用(個人負担金懇親会費を含む)差額が援助額。
- (2) 通信費は年次支部協議会、企画委員会、執行役員会等開催通知書送料他。
- (3) 協議会、企画委員会、執行役員会等会議資料印刷代。
- (4) 消耗品費は年次支部協議会用封筒作成等事務費。
- (5) 事業支援費
 - ① 交流委員会は経費申請が無かった。
 - ② 学生支援委員会は3年生(留学生含む)への就職支援活動費。(学員会本部からも支援)
 - ③ IT化推進委員会は全ての卒業年次支部とのネットワーク構築のための機器購入費。

平成24年度年次支部協議会収支決算 2013. 3. 31

収入の部		支出の部	
年度会費	260,000	会議会合費	677,950
懇親会費	453,000	通信費	78,220
その他の収入	13,886	印刷費	3,050
<i>利息収入</i>	<i>236</i>	消耗品費	27,959
<i>模擬店売上</i>	<i>13,650</i>	手数料	1,065
		事業支援費	264,350
		<i>交流委員会</i>	<i>0</i>
		<i>学生支援委員会</i>	<i>100,000</i>
		<i>IT化推進委員会</i>	<i>164,350</i>
小計	726,886	小計	1,052,594
前期繰越金	1,559,332	次期繰越金	1,233,624
合計	2,286,218	合計	2,286,218

次期繰越金内訳

- | | |
|-------|-----------|
| ①普通預金 | 1,197,581 |
| ②現金 | 36,043 |

私は、平成25年4月9日学員会役員会議室において、平成24年4月1日から平成25年3月31日における年次支部協議会の会計監査を実施した。

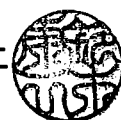
会計監査は帳簿並びに関係書類を照合するなどし監査を行った結果、収支計算書は会計帳簿の記載額と一致し正確であることを認める。

平成25年4月9日

年次支部協議会

会計監事

鈴木康二



年次支部協議会平成25年度予算編成について

1. 収入の部

- (1) 年度会費は過去5ヶ年間の平均で計上。
- (2) 懇親会費は参加者負担金を計上。(約5回分)
- (3) その他の収入は、普通預金利息を計上、模擬店売上は不確定のため項目のみ表示した。
- (4) 留学生との集い、口座よりの繰り入れについて

年次支部協議会の活動は全ての卒業年次に協議会活動への働きかけを行っている。

そのための活動資金として支援金を年次支部へ繰り入れ統一管理する。

また、学生支援委員会活動は就職希望の留学生も対象としている。

2. 支出の部

- (1) 会議会合費は懇親会費(個人負担)と援助金を計上。
- (2) 通信費は年次支部協議会、企画委員会、執行役員会等開催通知送料他。
- (3) 会議等資料印刷代。
- (4) 消耗品費は年次支部協議会用封筒作成等事務費。
- (5) 事業支援費
 - ① 交流委員会へは若年年次支部へ積極的な働きかけを行うための経費として。
 - ② 学生支援委員会は3年生(留学生含む)への就職支援活動費として、平成24年度実績で計上
 - ③ IT化推進委員会へは年次支部協議会として全ての卒業年次支部とのネットワークの構築および、そのIT化支援活動費として。

平成25年度年次支部協議会収支予算案 2013. 3. 31

収入の部		支出の部	
年度会費	260,000	会議会合費	700,000
懇親会費	500,000	通信費	60,000
その他の収入	200	印刷費	5,000
<i>利息収入</i>	<i>200</i>	消耗品費	30,000
<i>模擬店売上</i>	<i>0</i>	手数料	1,000
留学生口座より繰り入れ	2,863,287	事業支援費	200,000
		<i>交流委員会</i>	<i>50,000</i>
		<i>学生支援委員会</i>	<i>100,000</i>
		<i>IT化推進委員会</i>	<i>50,000</i>
小計	3,623,687	小計	996,000
前期繰越金	1,233,624	次期繰越金	3,861,311
合計	4,857,311	合計	4,857,311

会計担当 平岩

日本伝統文化国際交流協会 第5回勉強会 相撲の魅力

—相撲を100倍楽しもう—

日本人が大好きな相撲。昔のままのスタイルを守りつついまだに高い人気を集める相撲は、単なるスポーツの枠を超えた大切な日本文化のひとつです。

その歴史は1000年以上前にさかのぼると言われていますが、江戸時代には庶民が熱狂する娯楽として発展していきました。今回はそんな伝統ある相撲について、解説者に片男波親方（元玉春日関）、ゲストに落語家の柳家小団治師匠をお迎えし、その魅力をより深く知ってそして楽しんでいただけるように企画致しました。

皆様、お誘い合わせの上、是非、ご参加くださいますよう心よりお待ちしております。尚、終了後、懇親会を予定しています。皆様方と親交を深め思い出に残る有益な時間を過ごしたいと存じます。

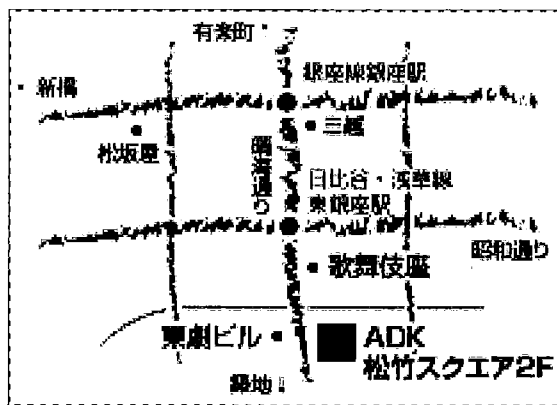


江戸時代、歌舞伎・文楽とならぶ三大娯楽

日時：2013年5月9日（木） 18:30（受付開始18:00）

会場：ADK松竹スクエア(中央区築地)

内容：解説者とゲストによるトークショー、関取と参加者とのふれあいワークショップ、その他相撲甚句や夏場所の見所についてなど、盛りだくさんです。



片男波親方(元関脇玉春日関)

1994年初土俵、2008年引退 基本的に忠実な突き押し相撲は高く評価された 最高位は西関脇 2010年年寄・片男波(14代目)を襲名すると共に、片男波部屋を継承 中央大学法学部卒



特別ゲスト 柳家小団治

1965年 五代目柳家小さんに入門 1970年 真打昇進 得意ネタは、抜け雀、ねずみ、茶の湯など多数。中央大学経済学部卒

最寄駅	東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅 5番出口 徒歩1分 東京メトロ有楽町線 新富町駅 1番出口 徒歩5分
主催 共催 協力	日本伝統文化国際交流協会 片男波部屋後援会 NPO法人IEO国際交流団体 松竹株式会社 正派薩摩琵琶士弦会、薩摩士魂の会
会費	・当日 一般 4,000 円 学生 2,000 円 お二人様割引 7,000 円 ・事前振込 一般 3,500 円 学生 1,000 円 5月2日(木)までに事務局にお申し込みの上、下記口座へお振込み下さい 尚、当日キャンセルの場合は、返金をいたしかねます
懇親会	要予約 別料金

お問合せ・お申込み：日本伝統文化国際交流協会

和田 TEL080-4000-2729 FAX 03-3728-5766

鷲見 TEL090-8176-8662 FAX03-3720-1888

*日本伝統文化国際交流協会 Facebook ページもご覧ください。

参加費振込先：

みずほ銀行蒲田支店 普通 1550534 日本伝統文化国際交流協会

参加申込書

ふりがな
氏 名

性別・年代 男 / 女 才

住 所 〒

人 数 大人 名 学生 名

勤務先/学校

電話/FAX 番号

E メールアドレス

紹介者・メッセージ

懇親会 参加する 参加しない